《Eros No.102》2022年、ブロンズ、91.5×44.0×19.0cm、作家蔵、撮影：山本糾

黒川弘毅——彫刻／触覚の理路　Hirotake Kurokawa—Sculpture / Haptic Passage

2022年10月24日（月）—11月20日（日）　11:00–19:00（土・日、祝日、10月28日（金）は10:00–17:00）　武蔵野美術大学美術館 展示室2・4 アトリウム1・2　水曜休館　入館無料

主催：武蔵野美術大学 美術館・図書館　協力：武蔵野美術大学彫刻学科研究室　〒187-8505 東京都小平市小川町1-736　Telephone：042-342-6003　Twitter：@mau_m_l

新型コロナウイルス感染症の状況により、会期・時間を変更、あるいは予約制を導入する場合があります。ご来館に際しては最新情報を当館Website（https://mauml.musabi.ac.jp/museum）でご確認ください。

MAUM&L

1

2

3

1《SIRIUS No.3》
1979–80年、ブロンズ
95.5×87.5×5.0cm
作家蔵

2《Hekate No.9》
1983–86年、ブロンズ
161.0×21.5×32.0cm
宇都宮美術館蔵

3《Benne Bird No.2》
1981年、ブロンズ
62.5×56.5×33.0cm
ケンジタキギャラリー蔵

4《Spartoi No.21》
1986–88年、ブロンズ
39.5×56.0×25.5cm
MTMコレクション

5《Golem No.8》(左)
《Golem No.9》(右)
1984–85年、ブロンズ
33.0×22.5×21.5cm (左)
28.0×37.0×21.0cm (右)
東京国立近代美術館蔵

6《Moon Fish No.2》
1986–87年、ブロンズ
50.0×140.0×45.0cm
作家蔵

7《Eros No.102》
2022年、ブロンズ
91.5×44.0×19.0cm
作家蔵

撮影：山本糾

「触覚を物体の表面に向けられた感覚と見なすのは誤りである。触覚は微細で馴染みのないものを遠く隔たった場所で感知する。それは彼方のものへ向かいつつそれ自身が目指すものとなって内側で自らを隔てる」＊と語る黒川は、立ち現れてくるものの実在性や物質性、そして触覚に対する思索を巡らせながら作品の制作を続けてきました。本展では、原型はなく鋳型だけを用いるという独自の手法によってブロンズ作品を生み出してきた黒川の、《SIRIUS》から始まる七つのシリーズの主要な作品約240点を余すことなく展示します。また試行錯誤の様子が見て取れる学生時代の具象作品、さらには《Eros》シリーズの最新作も出品いたします。膨大なヴォリュームの作品群を通して、黒川の最初期から現在に至るまでの50年におよぶ思索の軌跡を辿り、彫刻作品が持つ量塊・物質の感触やその実在性をあらためて体感する機会となれば幸いです。

＊『20ste Biennale Middelheim-Japan/Japanese Contemporary Sculptures』(1989年) カタログより

4

5

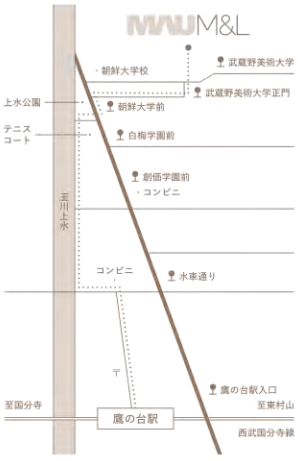
6

黒川弘毅（くろかわ ひろたけ）
彫刻家／武蔵野美術大学 造形学部彫刻学科教授

1952年 東京生まれ。
1977年 東京造形大学 造形学部美術学科彫刻専攻卒業。
1978–79年 同研究室に研究生として在籍。
1991–92年 文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリア・ミラノへ留学。
2003年 武蔵野美術大学 造形学部彫刻学科教授。
1980年 揄の木画廊で初めての個展を開催して以降、
『もの派とポストもの派の展開：1969年以降の日本の美術』(1987年 西武美術館)、
『20ste Biennale Middelheim-Japan/Japanese Contemporary Sculptures』
(1989年 ミデルハイム野外彫刻美術館)、『現代美術への視点：形象のはざまに』
(1992年 東京国立近代美術館／国立国際美術館)、『第3回光州ビエンナーレ』
(2000年 光州市立美術館) など、国内外で数多くの展覧会に参加。
現在まで一貫してブロンズによる彫刻を手掛けている。
また、近代彫刻研究、ブロンズ彫刻の専門家として、屋外彫刻の修復・保存にも携わる。

同時開催：
・AGAIN-ST ルーツ／ツール 彫刻の虚材と教材
・民俗資料室ギャラリー展示30
民具のデザイン図鑑――くらしの道具から読み解く造形の発想

武蔵野美術大学 美術館・図書館
〒187-8505 東京都小平市小川町1-736
Telephone：042-342-6003　Twitter：@mau_m_l
Website：https://mauml.musabi.ac.jp/museum

7

交通アクセス：
・西武国分寺線「鷹の台」駅下車、徒歩18分
・JR中央線「国分寺」駅北口（4番乗り場）より西武バス
「武蔵野美術大学」行き、または「小平営業所」行きに乗車、
「武蔵野美術大学正門」下車（バス所要時間 約25分）
・JR中央線「立川」駅北口（5番乗り場）より立川バス
「武蔵野美術大学」行きに乗車、
「武蔵野美術大学」下車（バス所要時間 約25分）
＊お車でのご来館はご遠慮ください。